



中村俊定文庫
文庫 18
703



秋風解情叙



とや〜 涼あらし山おもしろき事して
解負者士といふ人きりりしは
ひ〜 涼あらし山おもしろき事して
お〜 涼あらし山おもしろき事して
涼あらし山おもしろき事して
涼あらし山おもしろき事して

しほの建しにかつらとせぬ後の
子におのしほのまはらぬ
まゝあつた人々は白くしほ
あつたつよまのまかすいりり

寛政十年冬十月



秋の風は勢は衰へて候

しほのま



秋の風は勢は衰へて候
しほのまはらぬ
まゝあつた人々は白くしほ
あつたつよまのまかすいりり

さきのりりもたちつゝいふ昔昔のさ
まゝいふもせはたあまのさかすのさ
小鏡鏡弱たあゝいふじけあゝ日鏡
婦いふ家いふまか路いふいふさ
あふあゝいふいふいふあふあふあ
只あふいふ田いふいふあふあふあ
あふあふあゝいふいふいふいふあ
夕宵いふいふあふあゝいふいふあ

あふあゝいふいふあふあゝいふいふあ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
かあゝいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

秋風あふいふいふあふいふいふいふ

麻布

白ちよ此等のありしれり
 春心ちう〜れあ〜ハ冬
 一あ久り舟老雀おあら出せ
 やたあ〜〜〜れあ〜のあ〜
 摺らぬ布り〜あ昔れ秋の月
 するああ〜よりも初あ〜〜吹

椿堂
 幹負
 甲望
 季有
 負
 堂

ま〜〜〜〜〜休〜の〜の〜
 あれ袂を〜あ〜山〜
 恨〜人の〜〜れあ〜
 雨れや〜〜あ〜の〜
 春梅あ〜あ〜い〜い〜
 何〜〜〜〜〜あ〜あ〜
 惟もあ〜あ〜あ〜あ〜
 摘あ〜あ〜の〜あ〜あ〜人

有
 望
 堂
 負
 望
 有
 負
 堂

きしつゝもふみちの傍井坂
胡蝶のうへうらまゝの
うすきの舞もかゞはるる
いたゞりまはじ龍のり

有 望 堂 貞

いせの人

此塚名よ吹うに秋の風
塚のれは今は清し蝶の風
なをれ秋を掃かよの氣おや
もや月能枝と秋想あゝの蝶
あみくゝと家や深おひねる葉
ひしききのくゝは遠なる松の乾
あまふみかゝりりあのみ

大蕘 右竹 坡仄 鵝溝 方壺 菊羽 子良

あま風や常よこしぬ鏡の
 海らや雲一すらす峰の勢
 秋らも雲ありも松のかき福の
 好ももや霧のたけ秋のせ
 乃たや秋を埋ぬられの色
 久らもれ白の中ももつ風
 花やくくつて成るなれ花
 山られ雲よりりかたはるら

丘高
 箕上
 義靈
 泊泉
 尤琴
 浮江
 舍友
 合浦

明無忠危ふらり山
 やららまはま書風れ花
 名月共文も海芽花白む
 あら花れ入るらりい
 加らら花やゆらもらり
 山花川もははは花
 人も花れ庵も花らり
 花らら花は月入たり花

揚素
 季有
 可望
 幹負
 厄當
 叙流
 義童
 石人

月を此かきとらやすふあは
猿人の首啼物とせ小新あり
孔阜 椿堂

丹波若僧

後人下心きく於沈を結の月
音阿

とらふの僧

おとらふの舟より此を移るる
玉屑

甲斐の人

あつととあつたちを移るる
可都里

豊かの人

杉苗を打ふとく
了國

さけの人

鳴鶴の聲はさきかへて危き家
千當
さねやうり月とけさうの聲
騏道

京の人々

春かたは福をば月をば
丈左
ゆらふ又も人も折りり
墨尚
ハミミ海もさへ危きうたさり
関叟

大坂の人々

月の香地屋もさし福り危
長斎
みゆきぬさうく雁あさね
自樂
乃れもやうりゆかぬあさね
魯隱
鶴をいすれもあさねの月
楳價

むかしの人々

果もたふは松ヶ川山の名の月
みち彦

長翠

長翠

八月の夜に月を眺むるに

成美

三河の人

家五入りて引くや梅の花

卓池

糝やけハ揉むる上すもろの乾

入素

隆興の人

花のついでにさかすかに

雄溪

湖を舟より眺むるに

恒丸

榛乃雪やけは川を流す

南陽

さゆり花のたなをうら

白居

白居の人

花のふたは清くも

窓巴

かきまわすに

琴州

すしあふ人を呼ぶる門の口 巴水

志直のく

花をまきお人種を深めり 柳庄
今もこゝろを鳴かり河井 砒松
むせかた松風はあやむ 壺伯
初雪やふるかと丸お物もね 蕉雨
ふらふらとあつるかき鳴鳥のこゝろ 素磔

り給のく

まればおの家が老たりか 斗入
その音お好打あせし 一草
こ日月城なる先をまねお 嵐外
と河秋の香もまたお月お 田采

尾張のく

士朗
 羅城
 大阜
 桂五
 騏六
 徐英
 物裁
 墨山

松兄
 白圖
 大魚
 壽杏
 帶楳
 天老
 紀鳳
 竹有

冨山と火桶の中は月夜
 新下や草花の心もあやしの風
 おとろし〜も嬉し〜ふ月夜
 冬もあやしの心は泣きの心

方明
 少汝
 岳輅
 岱青



